令和８年度　全国学力・学習状況調査
上富良野町の結果について

令和８年９月 11 日
上富良野町教育委員会

Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査対象学年

町内小学校第６学年、町内中学校第３学年　原則として全児童生徒

３　調査内容

（１）教科に関する調査（国語、算数・数学、英語（中学校のみ）※令和５年度以来の実施）

- 身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など知識・技能等
- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力等

（２）質問調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

４　調査の期日

令和８年４月 23 日（木）

５　調査を実施した学校・児童生徒数（全国悉皆調査）

	上　富　良　野		北海道（公立）		全国（公立）	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
小学校	3	62	903	33,171	18,126	922,778
中学校	1	74	558	32,620	9,249	842,491

Ⅱ　調査の結果

○　今回の調査で測定できるのは「学力の特定の一部分」であり、学校における教育活動の一側面であることに留意する必要があります。

１　児童生徒の学力の状況

○　小学校（国語、算数）、　中学校（国語、数学）は、平均正答率を採用
　平均正答率は、各教科の全問題数に対して、正答した問題数の割合

○　中学校（英語）は、IRT（項目反応理論）スコアを採用
　IRT スコアは、各問題の難易度から学力を推定し、500 点を基準として表したもの

＜全国と上富良野町の結果比較の基準＞
「上回る」：＋３以上　「やや上回る」：＋１～＋３　「ほぼ同様：±１
「下回る」：－３以下　「やや下回る」：－１～－３

（１）小学校

教　　科	全道の平均正答率（%）	全国の平均正答率（%）	全国の平均正答率に対する上富良野町の平均正答率の結果
国　　語	６０．０	６０．９	全国平均を下回る
算　　数	５４．０	５６．４	全国平均を下回る

（２）中学校

教　　科	全道の平均正答率（%）	全国の平均正答率（%）	全国の平均正答率に対する上富良野町の平均正答率の結果
国　　語	６３．０	６３．９	全国平均を下回る
数　　学	５５．０	５７．０	全国平均を下回る
英　　語	全道のIRTスコア（点）	全国のIRTスコア（点）	IRTスコアの基準（500点）に対する上富良野町のIRTスコアの結果
	４９０	４９９	基準を下回る

小学校は、国語、算数ともに、全国平均を下回りました。

国語では、「漢字を文中で正しく使う力」「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる力」に成果が見られましたが、「文章を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力」に課題が見られました。

算数では、「立方体の体積の求め方の理解」や「十進数位取り記数法の仕組みを理解し、条件に合う小数をつくる力」に成果が見られましたが、「二次元の表から条件に合う数を読み取る力」や「異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述する力」に課題が見られました。

中学校は、国語、数学で、全国平均正答率を下回るとともに、英語においてもIRTスコア基準を下回りました。

国語では、「単語の活用の理解」「表現の効果を考えて描写する力」で成果が見られましたが、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする力」や「語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉える力」で課題が見られました。

数学では、「正の数と負の数を用いて変化や状況を表す力」や「表やグラフから必要な情報を適切に読み取る力」で成果が見られましたが、「累積度数の意味の理解」や「数学的な表現を用いて説明する力」に課題が見られました。

英語では、「日常的な話題について、自分の置かれた状況等から判断して、必要な情報を聞き取る力」については成果が見られましたが、「短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く力」や「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く力」に課題が見られました。

２　児童生徒質問紙の傾向

※　数字の単位は%、「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な割合の合計

（１）家庭での生活・学習について

○　基本的な生活習慣

質　　問　　事　　項	小学校	全　国	中学校	全　国
朝食を毎日食べている	85.7	93.3	94.3	90.9
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	79.4	82.8	90.1	80.5
毎日、同じくらいの時刻に起きている	84.1	90.7	88.7	92.4

○　平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか？
（学校の授業以外で学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む）

	３時間以上	２～３時間	１～２時間	30分～１時間	30分以下	全くしない
小学校	3.2	3.2	17.5	47.6	23.8	4.8
全　国	10.5	11.1	28.3	29.1	14.5	5.7
中学校	0.0	4.2	32.4	26.8	21.1	15.5
全　国	8.9	21.2	31.5	19.5	11.5	6.9

○　平日、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか？（教科書、参考書、漫画、雑誌は除く）

	２時間以上	１～２時間	30分～１時間	10～30分	10分以下	全くしない
小学校	4.8	3.2	7.9	9.5	14.3	46.0
全　国	5.0	6.9	14.2	20.0	15.1	26.3
中学校	1.4	4.2	7.0	12.7	16.9	42.3
全　国	3.0	4.9	10.1	15.6	12.9	40.7

○　学校の授業以外に普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を勉強のために使っていますか？

	３時間以上	２～３時間	１～２時間	30分～１時間	30分未満	全くしない
小学校	3.2	0.0	9.5	27.0	34.9	14.3
全　国	2.1	2.8	8.5	21.2	31.2	23.3
中学校	0.0	0.0	8.5	21.1	33.8	23.9
全　国	1.7	2.6	7.7	18.0	32.4	26.0

小学生・中学生ともに家庭における基本的な生活習慣（早ね・早おき・朝ごはん）が身に付いています。
　平日の勉強時間では、小学生は「３０分～１時間」が多く、中学生は「１～２時間」の割合が多くなっています。
　平日の読書時間については、小学生・中学生ともに「全くしない」の割合が約５０％と全国よりも高くなっています。
　平日、授業以外で勉強のためにタブレットなどのICT機器を使う時間については、小・中学生ともに「３０分未満」が最も多くなっています。

（２）学校での生活・学習について

質　問　事　項	小学校	全　国	中学校	全　国
自分には、よいところがある	79.4	85.6	77.4	84.0
将来の夢や目標を持っている	80.9	81.8	66.2	67.6
人が困っているときは、進んで助けている	85.7	92.7	91.5	90.8
友達関係に満足している	88.9	91.1	94.7	91.2
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる	52.4	70.6	54.9	71.9
学校に行くのは楽しい	74.6	85.7	85.9	85.4
いじめは、どんな理由があってもいけないことだ	96.8	96.2	98.6	95.1
人の役に立つ人間になりたい	92.0	95.8	95.8	95.9
国語の勉強は得意	65.0	60.4	43.7	51.6
国語の勉強は好き	47.6	57.4	53.5	57.2
国語の授業の内容はよく分かる	71.5	81.5	77.5	66.8
算数・数学の勉強は得意	46.1	60.1	32.4	48.5
算数・数学の勉強は好き	39.7	57.6	46.5	56.1
算数・数学の授業の内容はよく分かる	63.5	77.5	50.8	74.2
英語の勉強は得意	58.8	59.8	28.1	39.5
英語の勉強は好き	55.6	66.7	54.9	51.2
授業で、課題解決に向けて、自分で考え自分から取り組んだ	60.3	77.6	76.0	78.8
授業で、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表した	60.3	66.4	60.6	65.5
友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	85.7	91.4	95.8	92.4
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え	79.4	85.7	87.3	87.0

方に気付いたりすることができている				
授業でPC・タブレットなどのICT機器を週３回以上使用した	65.0	68.8	94.4	78.2
PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成することができる	80.9	79.1	85.9	84.8
インターネットを使って、情報を収集することができる	90.4	84.9	90.1	90.9
PC・タブレットなどのICT機器を使って、情報を整理することができる	66.6	69.5	66.2	69.4

「自分にはよいところがある」と認識する「自己肯定感」は、小学生では、８０％台ですが、中学生は、小学生よりも割合が低くなっています。例年（８５％～９０％台）と比較しても低い割合です。
「将来の夢や目標を持っている」では、小学生・中学生ともに、全国とほぼ同様となっています。
「人が困っているときに助けている」「友達関係に満足している」では、小学生・中学生ともに高い割合となっており、人間関係に肯定的な気持ちで生活していることが推察できます。
「いじめは、どんな理由があってもいけない」については、ほぼ全員の児童生徒が理解しており、いじめに対する認識は深まっています。
更に、「人の役に立つ人間になりたい」という「自己有用感」についても、小学生・中学生ともに大変高い割合となっています。
国語、算数・数学、英語の中での好きな教科について、小学生においては①英語②国語③算数、中学生においては①英語②国語③数学となっており、小学生・中学生ともに「算数・数学」への苦手意識が強いと推測されます。

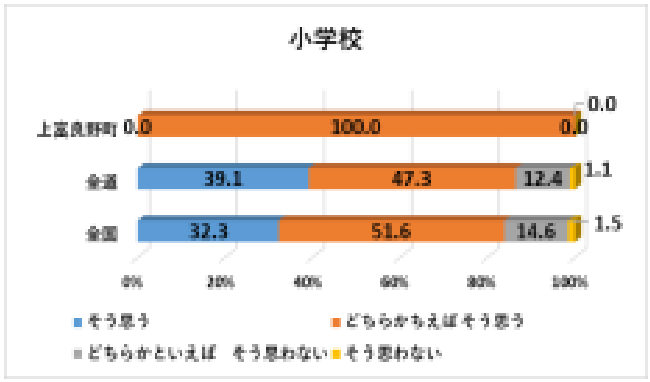
（３）関心・意欲・態度等について

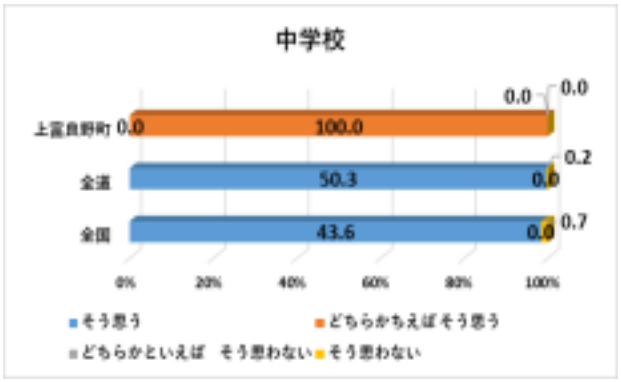
質　問　事　項	小学校	全　国	中学校	全　国
地域や社会をよくするために何かしてみたい	73.0	80.1	81.7	72.3
新聞を週１回以上は読んでいる	4.8	10.0	1.4	6.2

「地域や社会をよくするために何かをしてみたい」という思いは、小学生・中学生ともに高くなっています。
「新聞を週１回以上読む」については、全国の小学生・中学生の傾向も高くはないですが、中学生よりも小学生の割合が高くなっています。

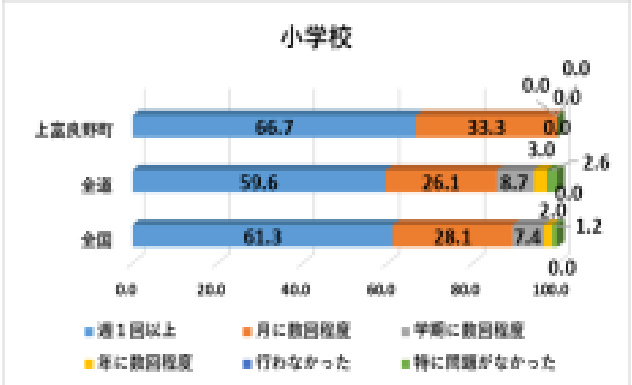
３　学校質問紙の傾向

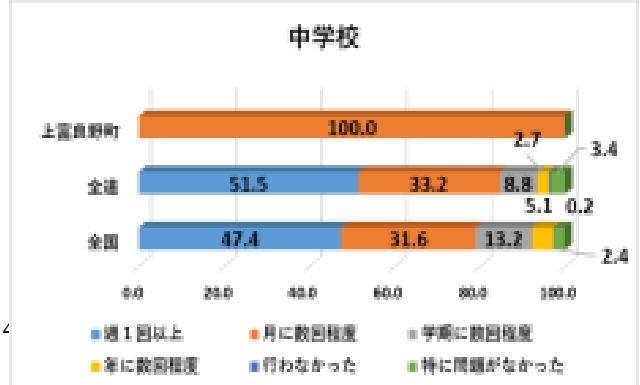
（１）児童生徒は、授業中の私語は少なく、落ち着いていますか



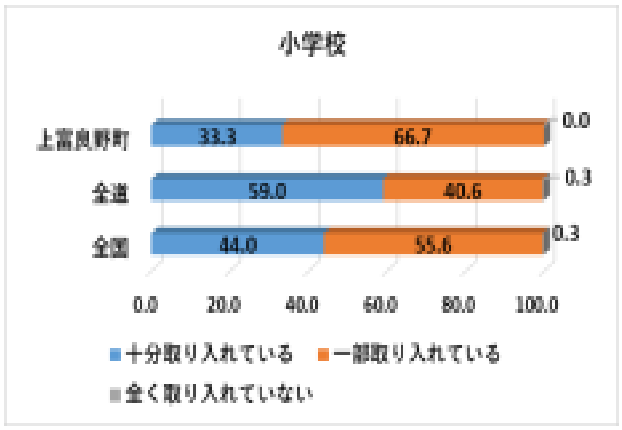


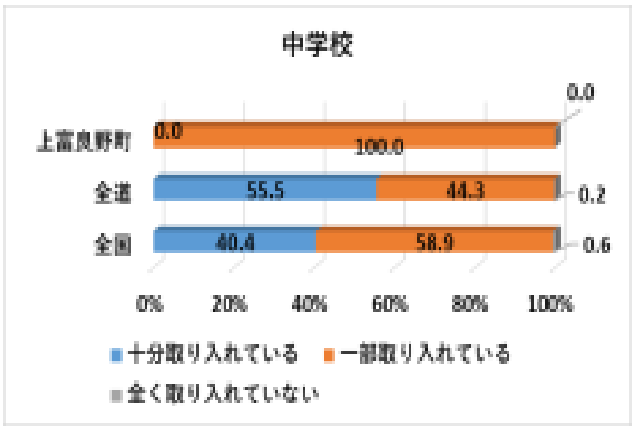
（２）教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決にあたることを行っていますか



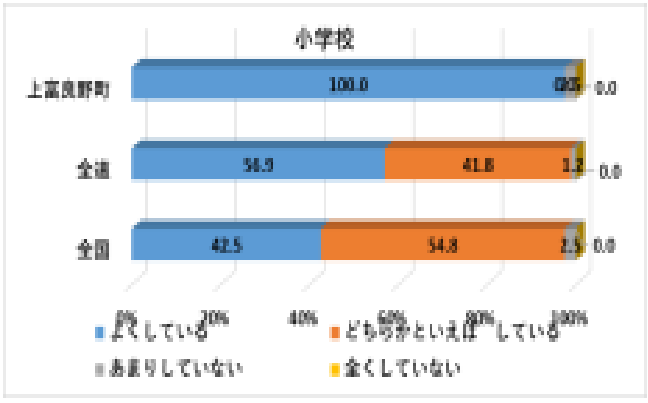


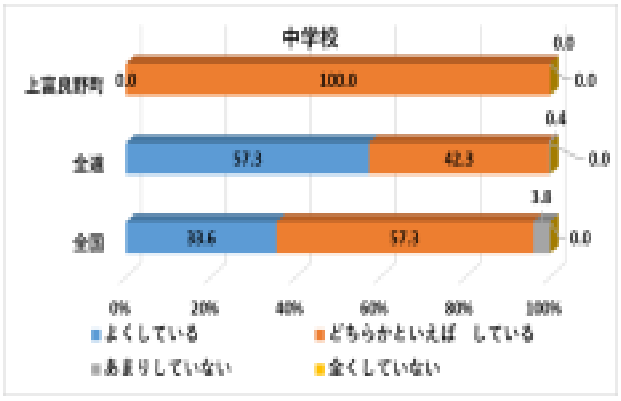
（３）ICT を活用した校務の効率化（業務の軽減）に取り組んでいますか



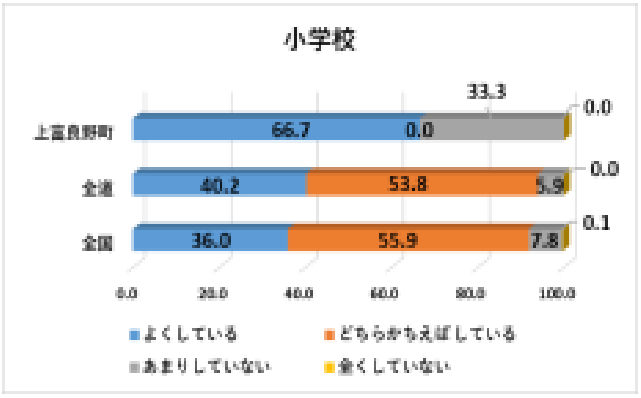


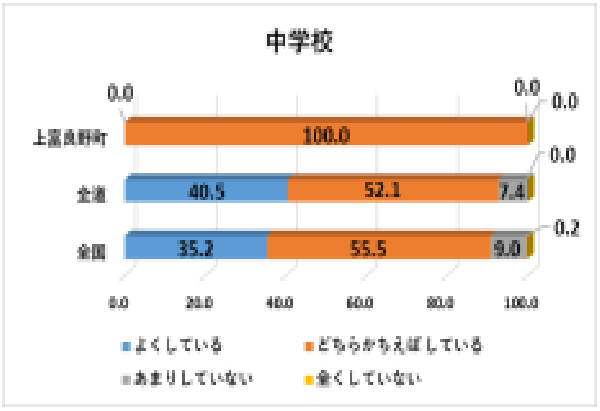
（４）児童生徒・地域の実態をもとに、教育課程を編成・実施・評価・改善する PDCA サイクルを確立していますか



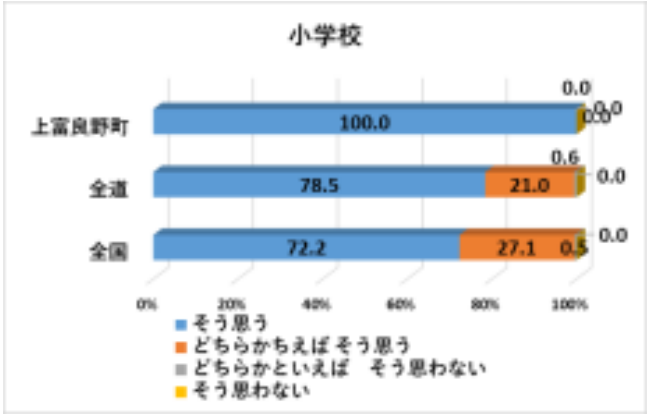


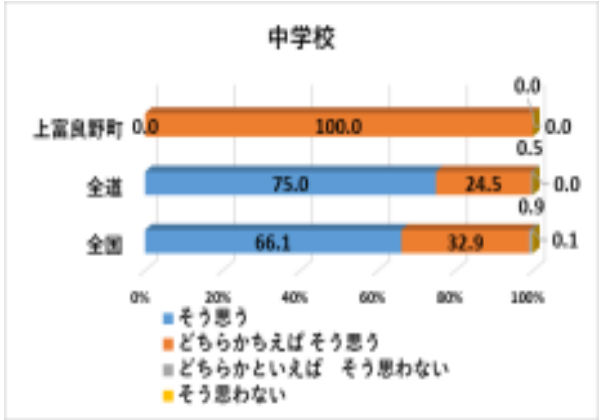
（５）今までの取組を踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いですか



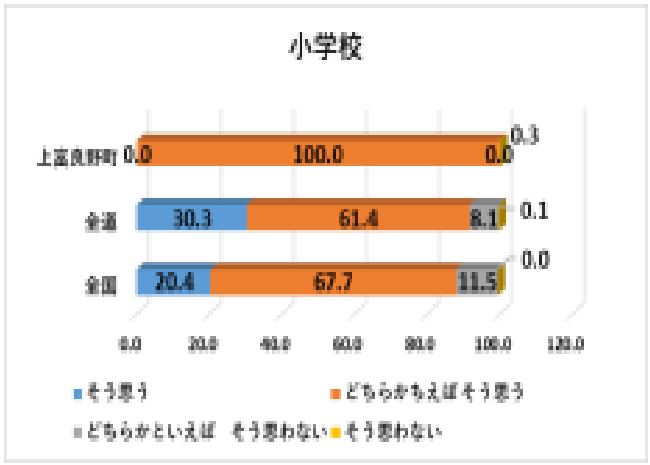


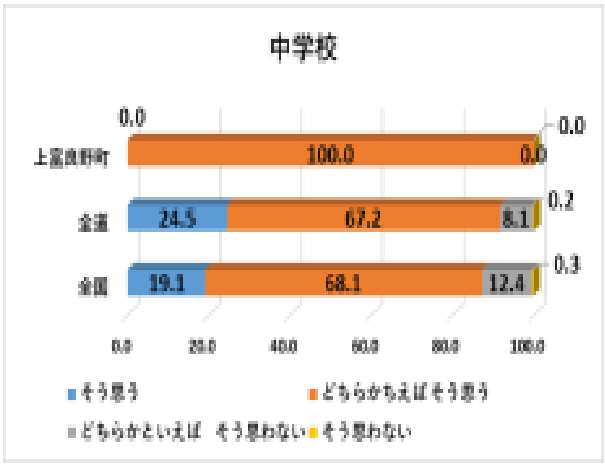
（６）教職員が困っている時、管理職と教職員間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していますか



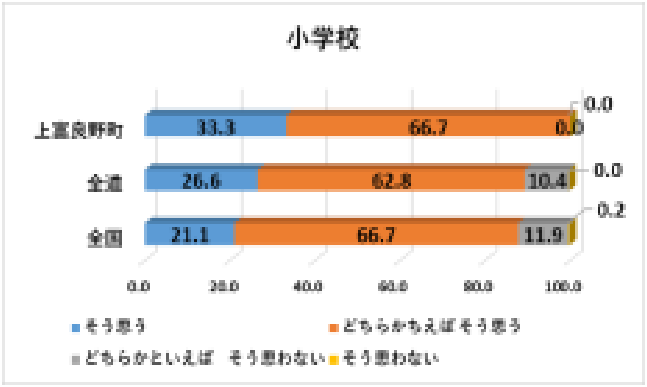


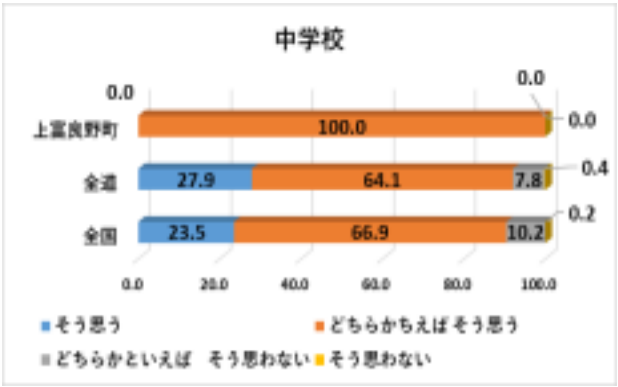
（７）児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組むことができていますか



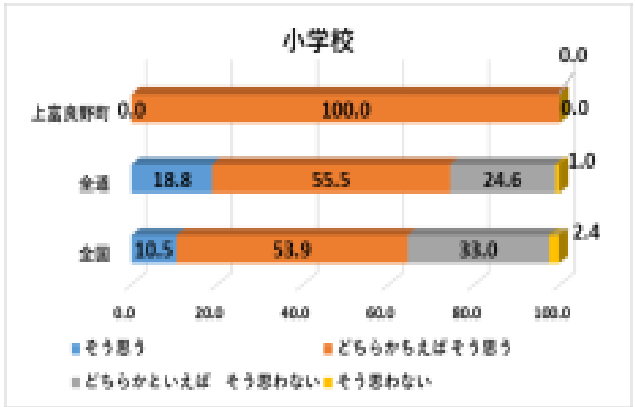


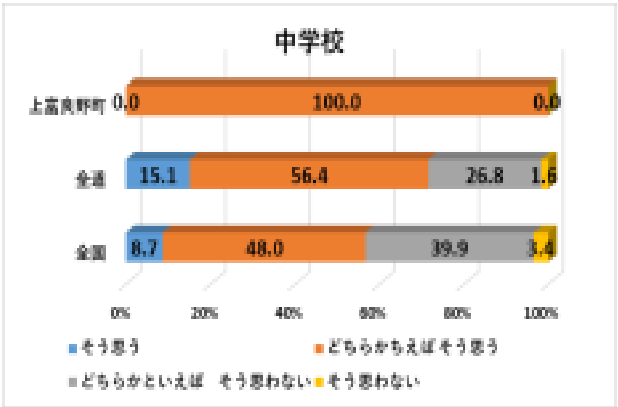
（８）児童生徒は、話合い活動で、自分の考えをしっかり伝えることができていますか



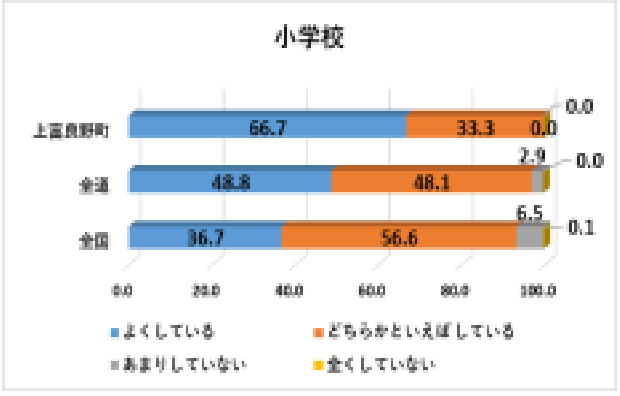


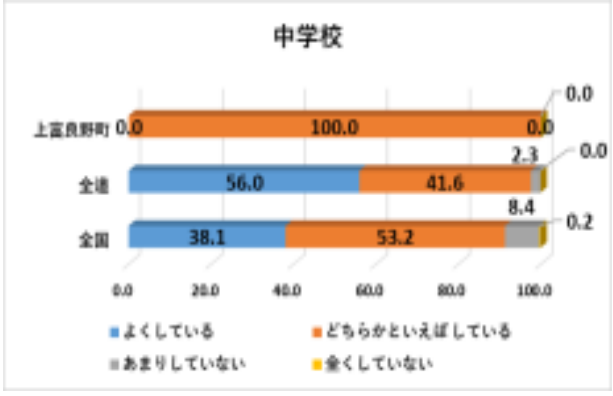
（９）授業では、児童生徒が自分で学ぶ内容を決めて、計画を立てて学ぶ活動を行っていますか



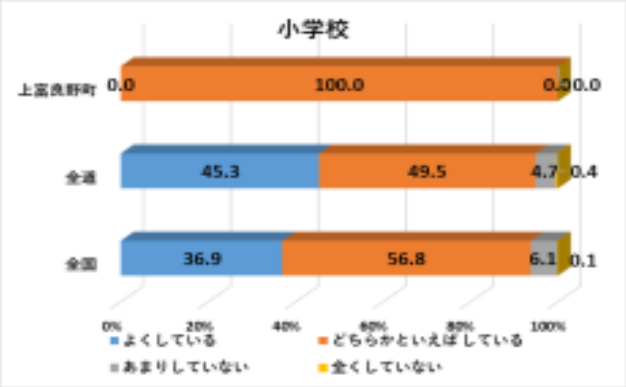


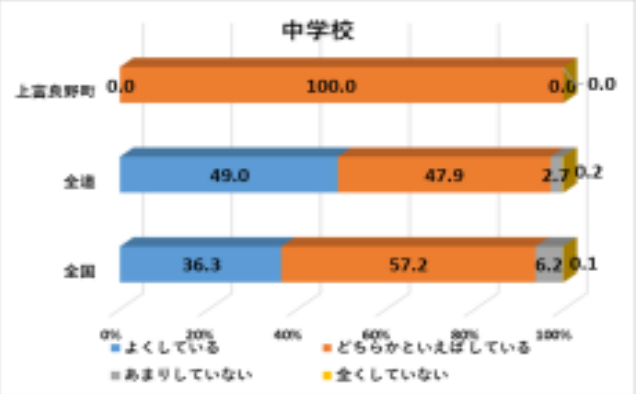
（１０）総合的な学習の時間において、課題設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか



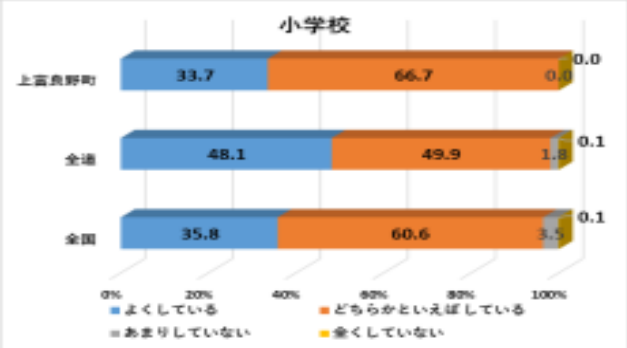


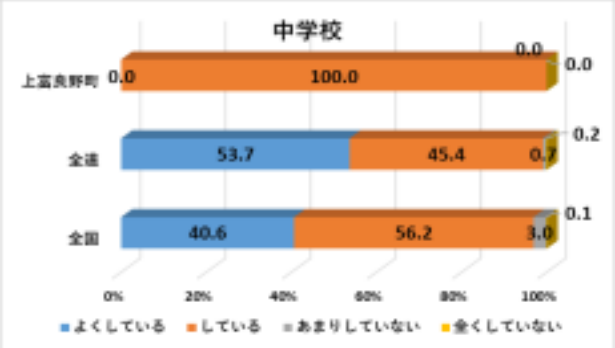
（１１）学校生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法などを合意形成できる指導を行っていますか



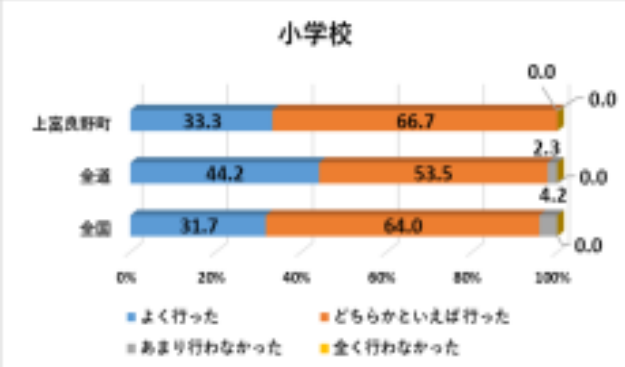


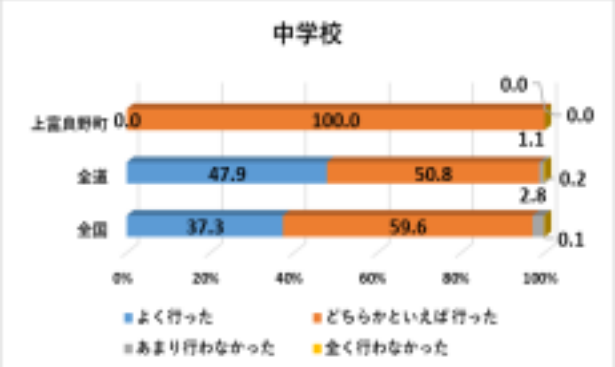
（１２）「特別の教科　道徳」において、自分自身の問題として捉え、考え・話し合うような指導の工夫をしていますか



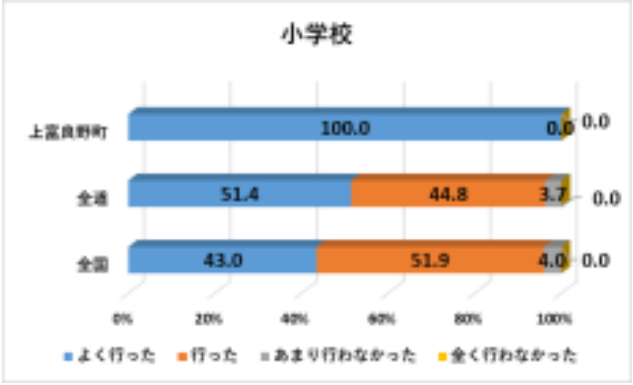


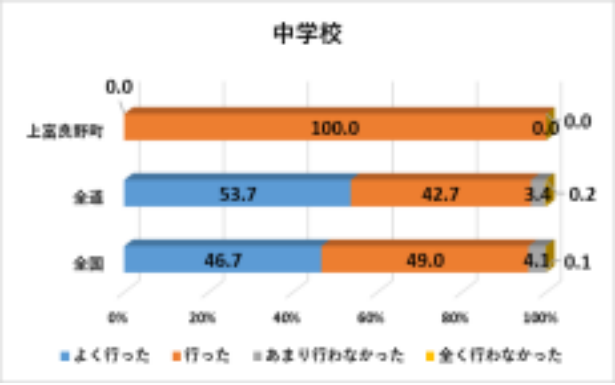
（１３）国語の授業で、児童生徒の学習状況について、改善すべき点を伝え、改善できる手立てを講じていますか



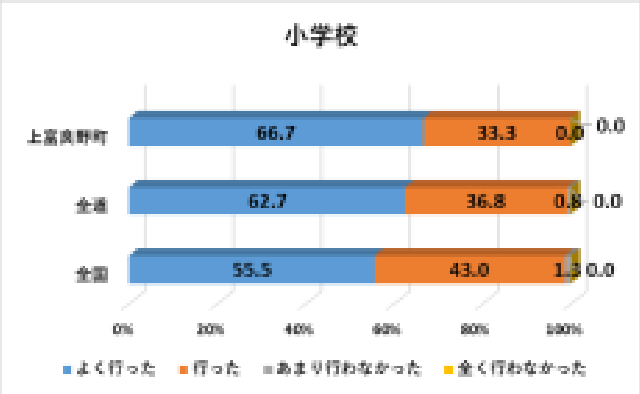


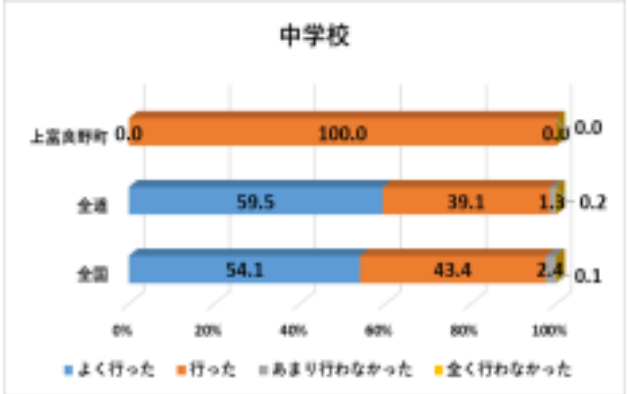
（１４）算数・数学の授業では、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、根拠を明確にして説明させるような授業をしていますか



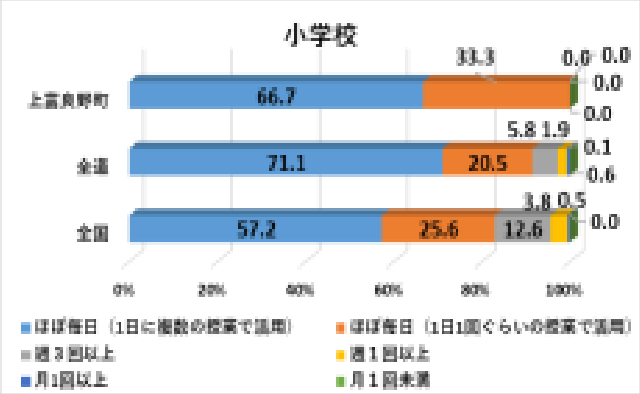


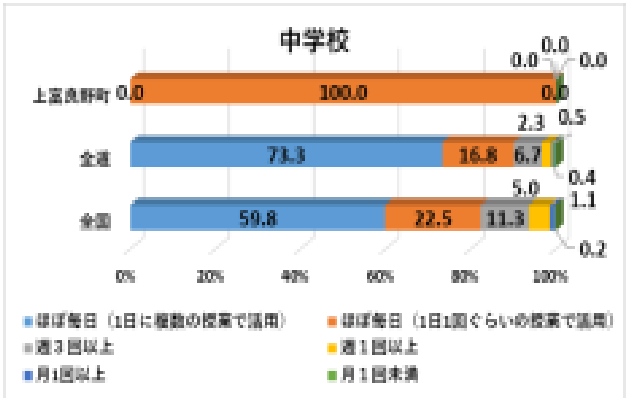
（１５）理科の授業において、観察や実験の結果を整理し、考察する指導を行いましたか



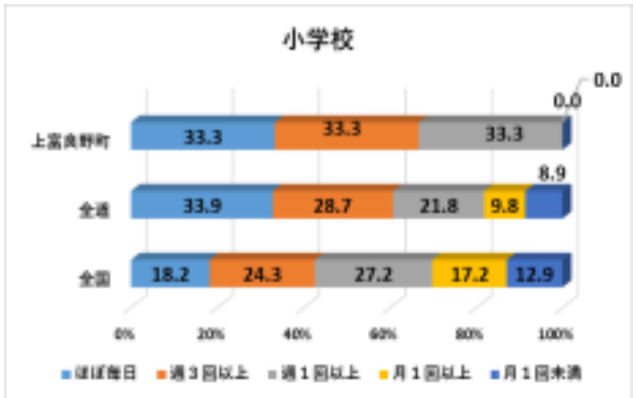


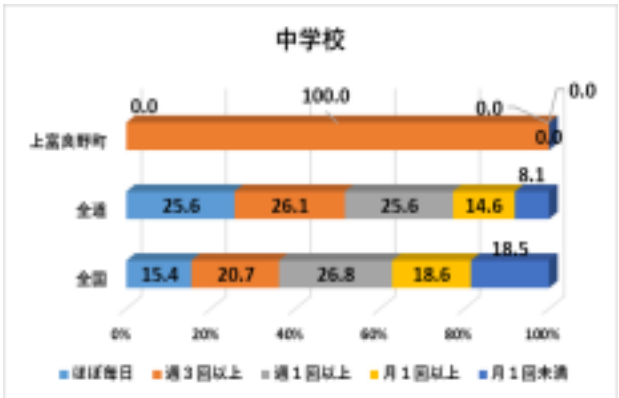
（１６）児童生徒に配備された PC・タブレットを授業で、どの程度使いましたか



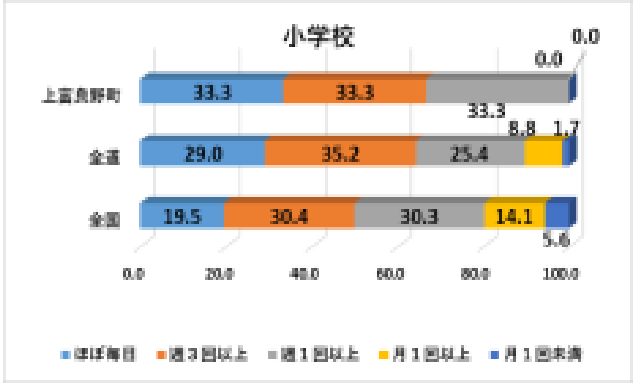


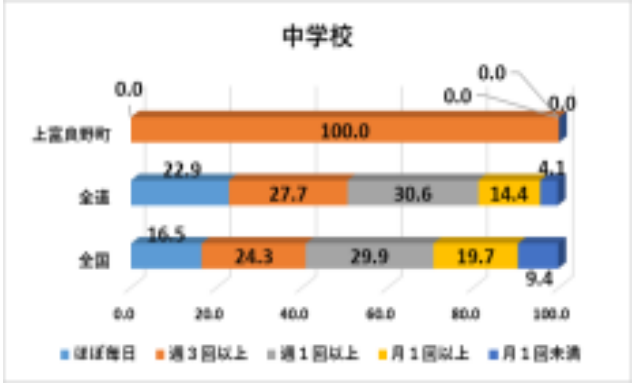
（１７）PC・タブレットなどの ICT 機器について、児童生徒同士がやりとりする場面では、どの程度使用させていますか



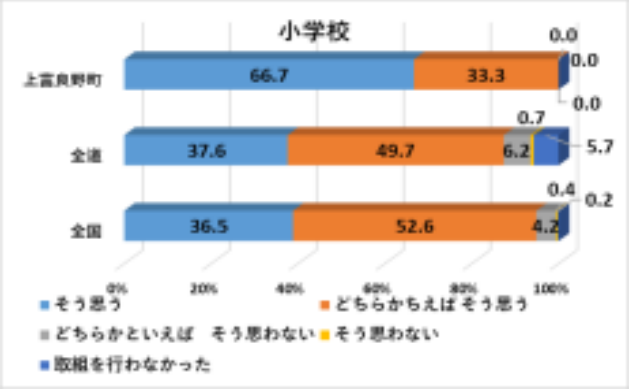


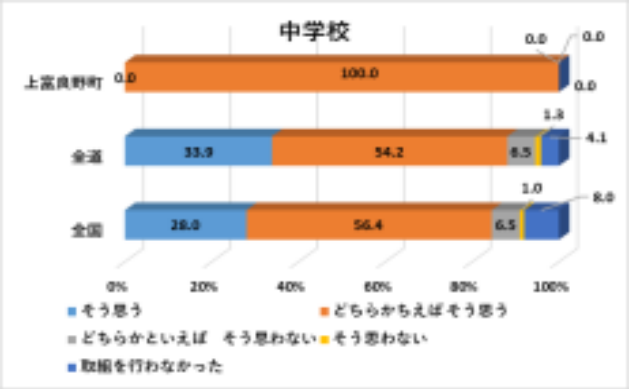
（１８）PC・タブレットなどの ICT 機器について、児童生徒の特性や理解度・進度に合わせて取り組む場面では、どの程度活用していますか



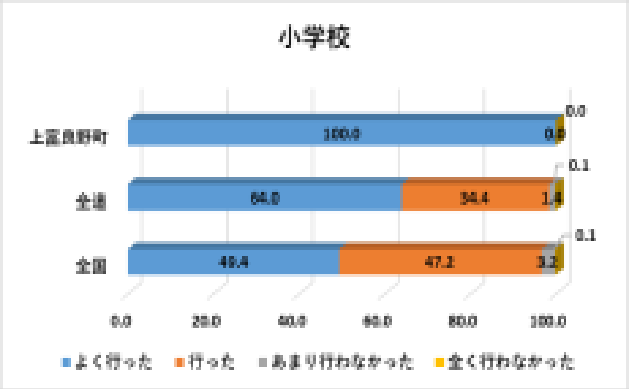


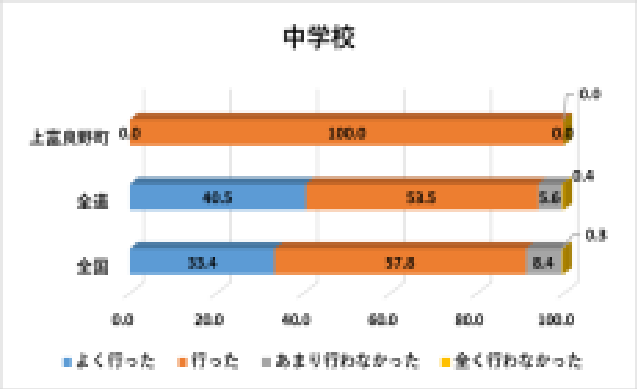
（１９）コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者との相互理解は深まっていますか





（２０）家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか





○小学校・中学校ともに、授業中は、集中し、落ち着いて学習に取り組んでいます。
○小学校・中学校ともに、教員が学級上の問題を抱えている場合、組織的に解決する体制が整えられています。
○小学校・中学校ともに、PDCAサイクルが確立され、様々なデーター等を基に、教育課程の編成・実施・評価・改善がなされています。
○前例踏襲にとらわれず、新たな取組の導入や提案などによる学校改善を進めようとする教員が多くなってきています。
○小学校・中学校ともに、管理職と教職員間で随時相談できるなど、組織的に対応する体制構築されています。
○本町の児童生徒は、課題解決に向けて、主体的に取り組むことができていると、小学校・中学校では捉えています。
○本町の児童生徒は、話合い活動で、自分の考えをしっかり伝えることができていると、小学校・中学校では捉えています。
○授業において、児童生徒が自分で学ぶ内容を決めて、計画を立てて学ぶ活動は、小学校・中学校ともに、よく行われています。
○総合的な学習の時間において、課題設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導は、中学校よりも小学校で行われています。
○学級や学校をよりよくするための話合い（学級活動）では、互いの良さを生かして解決方法などを合意形成できる指導がなされています。
○「特別の教科　道徳」において、取り上げた題材を自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫が行われています。
○小学校・中学校ともに、国語の授業において、児童生徒の学習状況について、改善すべき点を伝え、改善できる手立てを講じています。
○算数・数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、児童生徒に根拠を明確にして筋道を立て説明させる指導は、中学校よりも小学校でよく行われています。
○理科の授業において、観察や実験の結果を整理し、考察する指導は、中学校よりも小学校でよく行われています。
○「日常の授業でPC・タブレットなどのICT機器を使う頻度」については、小学校・中学校ともに、１日に１回は使用されており、特に小学校においては、１日に複数回使用する等、活用頻度は高いです。
○コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者との相互理解は深まっていると、小学校・中学校ともに捉えています。

Ⅲ　現状と今後の取組

1　小学校は、国語、算数ともに、全国平均を下回りました。国語の正答数の割合では、中位グループに集中し、算数は、下位・中位グループに集中しています。
　国語では、「漢字を文中で正しく使う力」「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる力」に成果が見られましたが、「文章を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力」に課題が見られました。
　算数では、「立方体の体積の求め方の理解」や「十進数位取り記数法の仕組みを理解し、条件に合う小数をつくる力」に成果が見られましたが、「二次元の表から条件に合う数を読み取る力力」や「異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述する力」に課題が見られました。

　中学校は、国語、数学で、全国平均を下回るとともに、英語においても IRT スコア基準を下回りました。国語の正答数の割合では、下位・中位グループに集中し、数学は、下位・中位・上位グループと個人の学力差が現れています。
　国語では、「単語の活用の理解」「表現の効果を考えて描写する力」で成果が見られましたが、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする力」や「語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉える力」で課題が見られました。
　数学では、「正の数と負の数を用いて変化や状況を表す力」や「表やグラフから必要な情報を適切に読み取る力」で成果が見られましたが、「累積度数の意味の理解」や「数学的な表現を用いて説明する力」で課題が見られました。
　英語では、「日常的な話題について、自分の置かれた状況等から判断して、必要な情報を聞き取る力」で成果が見られましたが、「短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く力」や「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く力」で課題が見られました。

　「確かな学力育成プラン」を見直し、授業内容の精選、個別や全体などの指導方法の一層の工夫改善など、児童生徒の実態に即した様々な取組や小・中学校の連携を着実に実施していきます。

2　基本的生活習慣（早ね・早おき・朝ごはん）が身に付いている児童生徒が多いです。
　一方、「平日の勉強時間」では、小学生が３０分～１時間、中学生が１～２時間が多くなっていますが、全国と比べると勉強時間は短い状況です。
　また、「平日の読書時間」も、小学生・中学生ともに「全くしない」が約５０％と全国よりも、高い割合で、読書量は非常に短いです。

　生活リズムチェックシートの活用等、家庭と連携した取組を促進していきます。

3　「自分には、よいところがあると思う」について、肯定的な回答した割合は、小学生が７９．４％（全国８５．６％）、中学生が、７７．４％（全国８４．０％）となり、小学生・中学生ともに全国よりも少ない割合です。

　日常の授業や行事等の取組など、さまざまな活動の機会をとおし、児童生徒一人一人の良さを認め、更なる自信につなげていきます。

4　「将来の夢や希望をもっている」について、肯定的な回答した割合は、小学生では８０．９％（全国８１．８％）、中学校では６６．２％（全国６７．６％）と、小学生・中学生ともに全国とほぼ同様ですが、小学生に比べ、中学生は低い割合となっています。

　職場体験学習の充実をはじめ、キャリア形成を目指すキャリア教育を一層工夫していきます。

5　「学校に行くのは楽しい」について、肯定的な回答した割合は、小学生は７４．６％（全国８５．７％）と全国よりも少なく、中学生は８５．９％（全国８５．４％）と全国とほぼ同様でした。

　小学校段階から「学ぶことや学校生活が楽しい」と児童生徒が実感できる授業や諸活動へと、より一層工夫・改善していきます。